

教団の将来は神学院にある！

～求めなさい。そうすれば～



会長 中山朝雄

「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。」

(マタイの福音書七章七節)

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が五月に五類に引き下げられやつとインフルエンザ並みの感染症分類となり、マスク生活から解放されそうです。日本で初めて感染者が確認されてから三年四ヶ月のコロナウイルスとの長い戦いでした。

この様な中、今年は三年振り
にBTCに当教団出身の献身者
者二名(水口聡兄、水口恵姉)
を歓迎できましたこと、主の憐れと恵みに心より
感謝しております。全国の教
会の後援会世話人をはじめ皆
様の熱心なお祈りの故に主に
感謝し御名を崇めておりま
す。お二人の今後四年間の学
びと訓練の上に、主の豊かな
導きと祝福がありますように
お祈りを宜しくお願いいたし
ます。

これまで三年間教団内から
献身者が興されませんでした
ので、今年献身者が与えられ
なかつたら、また与えられた
としてもコロナ禍を通して大
きく変化した時代に即した神
学院教育を今後どの様な体制
で構築したらよいかを神学院
に関わる教団関係者は考えさ
せられた機会でもありまし
た。

現在の神学院は一昔前とは
違い神学生一人一人がのびの
びと主の前に主体的に学び訓
練されるようになってしまし
たが、果たして献身を志して
いる兄弟姉妹にとって今の教団や
神学校は、我が身を託して学
び訓練を受け、牧師としてそ
の任を全うすることに人生を
かけて踏み出す魅力ある存在
として映っているのかについ
て、教団として真剣に問い直
しその課題に真摯に向き合う

ことが喫緊の課題ではないで
しょうか。

コロナ禍の影響もあり小中
学生の不登校二四万人、引き
こもり人口一四六万人といわ
れる混乱した世の中で、大人
も子供も多くのストレスを抱
えながら過ごしております。
この様な世の中で真実に生き
生きと信仰生活を守ることが
できるように私達に寄り添
い、神学的な学びはもとより
人間的・心理学的な学びを
も深めた魅力ある羊飼いが育
て上げられる神学校を私達は
切望しております。また、現
役牧師の高齢化と献身者の
減少により卒業後すぐ教会を
任される現実を踏まえて、教
会運営のために必要な教会経
済・会堂管理・ハラスメント
等々の実践的な学びがより一
層必須となっていると思われ
ます。これらの事を十分取り
入れた神学教育プログラムの
構築が必要ではないでしょ
うか。

インマヌエルの群れが希望

◆日々お祈りください

- ① 献身に導かれる方が与えられ
るように。特に、若い方々が
さらに加えられるように。
- ② 神学生の学びと訓練が祝され
るように。
- ③ 教師、職員、スタッフが恵み
によって用いられるように。
- ④ 今後のキャンパス活用に主の
導きがあるように。
- ⑤ 神学院の必要が豊かに満たさ
れるように。
- ⑥ 後援会役員、推進委員、世話
人が尊く用いられるように。
- ⑦ 後援会が経済的に自立してい
くことができますように。

ある教会・教団として主に
よって建てられ続けるため
に、教団の将来は神学院にか
かっていることを意識して、
現況の神学院の体制に囚われ
ず教団の将来を担う青年達や
信徒の意見等も幅広く吸い上
げて、今後の神学院の在り方
を早急に教団として検討いた
だきたいと祈り求めておりま
す。

祈り求める者に真実に応答
してくださる恵み豊かな主に
依り頼みつつ、教団のために
また、更に献身者が興されま
すように引き続き皆様と共に
お祈りさせていただきますし
ょう。

目次

- 巻頭言 1
- 祈りの課題 1
- 世話人からひと言 2
- 23年度新入生69期卒業生紹介 2
- BTCどうする?どうなる? .. 3
- 後援会会計報告..... 3
- 西日本ブロック世話人会.... 4
- 院長コラム..... 4
- 編集後記 4

イムマヌエル
聖宣神学院後援会
<http://btc.jp.com/>



聖宣神学院 どうする？どうなる？



矢木良雄師

(桂町教会牧師)

神学院 今後の在り方について

「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。」(第二テモテ二章二節)

ペテロはヨハネ二一章で、羊飼いとて羊を養うようにと主から使命を託されています。言い換えるなら、ペテロにはもう羊でいることは許されていないのです。神学院の役割はヨハネ二一章に集約されていると思います。羊を羊飼いに造り変えることです。もちろん、なされるのは主ご自身ですが、責任の一端を委ねられていることも事実です。

神学院がどうあるべきかは、この数年さまざまな提案がなされ、議論がされてきました。理事会制度の導入、神学校の統合、他の神学校への委託などなど。それぞれに一長一短があつて決定的な解答を見出すことはできませんでした。結局どうか、今のところというか、教団立の神学校として続けていくことになりました。個人的には覚悟を決め、どんな困難があつても教団立を貫いていくことが最善だと信じています。入口となるのは献身者の興起です。少子化傾向が続いているとは言え、神さまは必ず青年の心に声をか

けていくくださると信じます。私たちの役割は、その声に素直に従える環境を整えることです。昨年も神学院では夏フェスタ、秋のオープンキャンパス、暮れのリトリートが開催され、神学院の本気度が伝わってきました。とにキャン、ビルド、Re、リンクスの流れもこれから用いられて行くでしょう。教団挙げての応援態勢が作られつつあることは心強いことです。

また、入学した神学生たちが安心して学べる環境作りも大切です。カリキュラムの整備も続けられてきました。若手？の先生方も増えました。これからもクラス充実のための努力が重ねられていくでしょう。また神学生への経済的な支援も必要です。収入を断つて献身してこられているわけですので、在学中の公費の支払いや生活費に対する配慮が求められます。出身教会だけでなく、全教団的な支援の態勢を整えなければなりません。

現在の神学院は教室での学びが三年、インターンが一年です。つまり在学期間は四年間です。この間にさなぎから蝶に変身しなければなりません。世話をしてもらう羊から、羊飼いの飛躍です。途方もない成長が期待されるのです。冒頭のみことばのように「人にも教える力」を鍛え、周りの人たちから人間的にも、霊的にも「信頼できる」と言ってもらえるような牧師・伝道者に成長しなければなりません。この目的を達成するには、振り返って私たち自身

の信仰が試されます。覚悟を決め、真剣に取り組んでいきたいと思えます。



藤本満師

(高津教会牧師)

神学院 ノスタルジー

後援会は学院を批判する場ではありません。しかし、同意見の方もおられると信じ、この機会を用いて「いつも言っていること」を書きます。

●驚くほど旧態依然——私は学監を約二〇年務めました。初期の頃は、学生が多かったので、一学年で一つのクラスを構成できました。学生が減り始め、学年を合同してクラスを形成することを提案・実行するのには数年を要しました。批判はいつも同じです。学びには順番がある。一年には一年生に必要なものを。単位を修得すればいいというのではない。順番に積み上げて行くことが、牧師への道。とは言え、実際に無理です。一事が万事、現状に応じて形態を変化させることに弱く、精神をすり減らし、ほとんど諦めてしまいます。

●驚くほど各個主義的——私たちが連携している米国ウエスレアン教会は神学校を持つていません。神学校教育は他の機関にゆだね、そこへ教師や神学生を送ります。神学校を持つ財政は、教団を持つ財政に等しいからです。ところが日本教団は、アイデンティティを神学校に求めるので神学校そのものが各個主義です。協力関係を構築できません。地域教会も同じで、近隣の教会が無牧でも、助けることも助けられることも好みません。

基礎科目は共有する(オンライン講座)、単位は神学校で交換できるシステムを作る。コロナは良い機会でした。でもそれをバネにする変化はありませんでした。私は教団内外で、口をとがらせて何十年もこのことを訴えてきました。しかしほとんど前進は見られません。そろそろすり減ってきました。希望の忍耐を祈ります。



世話人からひと言



松浦みゆき
(藤枝教会)

世話人のお証しを書こうと

した矢先、母が救急車で病院に搬送されました。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。」(イザヤ書41章10節)世話人として何ができるのかという思いがありました。が、ともにいて下さる神に感謝しつつ、神学院のために祈り、ご奉仕させていただきます。



生名若美
(市川教会)

私は、京都府のクリスチャンホームで育ち、信仰の友と祈りつつ歩んできました。その友が献身したとき、背後で積まれていた無数の祈りを覚え、自分も祈って支える側になりたいと思いました。神学校のますますのご発展がありますよう、心からお祈りしております。



篠田めぐみ
(中目黒教会)

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。」(詩篇37篇5節)

中学の夏のキャンプで訪れたのが最初です。その後木々に覆われた静かなBTCに再び訪れたのは三十年以上経ってからです。BTCの為多くの方々がお祈りして下さる一方、私のようにBTCについてあまり知らないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。先ずは私自身がBTCの現状を知り、会の皆様に情報を発信していきたいと思っています。宜しくお祈り致します。



松岡大介
(桂町教会)

この度、聖宣神学院後援会の

桂町教会世話人になりました。松岡大介と申します。ちょうど2000年12月、中学生の時に洗礼を受けました。今は妻と2歳になる娘がおります。子育ての真つ最中、日々奮闘中です。ぜひ娘にも信仰の継承ができるように祈っております。そのよくな祈りに世話人の働きを任せられたことは、神さまのみこころ、また恵みと信じて担っていきたいと思います。さらに献身者が興され、信仰継承がされていくことをお祈りします。



猪藤光市
(四日市教会)

昭和45年7月、彦根特別伝道集会で岩上輝雄先生のメッセージより「子よ。安かれ。汝の罪赦されたり」というみ言葉を頂き、信仰生活が始まりました。「インマヌエル」神が私たちともにおられる。今も、私たちを御護ってくださいます。



竹内 滋
(深川教会)

「主に感謝することとは良いことです。」詩篇92篇1節

神学院の世話人を仰せつかり感謝しております。何もできませんが導きに従ってまいります。神学院との係わりは、今の横浜の献堂式からのことで、救われたい方が浦和の時代に、ご奉仕されていくことが心にあり、當繕課の徳竹先生を存じておりましたので、何時の頃からかお手伝いするようになり、今に至っております。主は我らを愛し、共に存することを感謝しております。



立花聡志
(盛岡教会)

盛岡教会は今年度から秋田教会の神谷光一・美津子先生ご夫妻の兼牧となりました。全国の教会でも同様の事情で常駐牧師不在の状況となっているところもございいます。であればますます私たち教会員が自分たちの教会から献身者が起こされるよう切なる祈りを捧げる必要に迫られており、その為にも神学院の情報を共有し、より身近に神学院を感じられるようお伝えしていきたいと思っております。

2023年度新入生紹介



水口聡
(中目黒教会)

宣教団体を退職し、直接献身に導かれました。み言葉は詩篇95篇7〜8節。「御前に一人になることを学ぶ期間であることを覚えております。」



水口聡
(中目黒教会)

2018年宣教団体勤務時に聡兄と結婚。BTCオープンキャンパス、リトリートに参加。聡兄と同じ詩篇95篇7〜8節のみ言葉を与えられて直接献身に至る。「主に希望を置いて神学院での

大切な期間を過ごさせていたいただきたい。」



※正規コース神学生 (林兄、森姉)

第69期卒業生紹介

石川順

東京フリーメンソジスト

桜ヶ丘教会赴任



BTC後援会費ご協力に感謝します

全国の教会の皆様のご支援により下記の通り会計報告できますこと感謝いたします。今後もお祈りと共に、ご協力をよろしくお願いいたします。

BTC後援会費収支報告書

2023年3月31日現在

項目	収入	支出
22年9月30日繰越	742,920	
後援会費(教会)	300,000	
雑収入(利息)	3	
通信費		29,419
印刷費		9,640
会議費		17,015
* 支援金献金		50,000
交通費		11,000
事務費		21,384
* 慶弔費		30,000
雑費		527
小計	1,042,923	168,985
次期繰越		873,938
合計	1,042,923	1,042,923

* 支援金: BTC年末フェスタへの支援献金

* 慶弔費: 徳竹信雄師へのお見舞い

西日本ブロック世話人会開催のご案内

★開催日時: 2023年9月30日(土)
13時30分～15時30分

★開催方法: 対面
(状況によってはZOOMとハイブリッド)

★開催場所: ベテルハウス
(宿泊可能、交通費一部補助)

★対象教会: 西日本ブロック (近畿、四国)
※7月中に関係各教会あてに詳細事項をご案内します。ご参加のほどよろしくお願いいたします。

ホッとひと息

編集後記



企画担当から

今年度は教団内から献身者をお迎えできて幸いです。入学された神学生方も「安心して学べる魅力ある」環境で学んで欲しいと切に願っています。現時点では同年の複数の男子或いは女子神学生それぞれが互いに助け合って学ぶことが出来ない環境にあり、学びの上で大きなハンディであるかと思えます。できるだけの配慮を重ねて秋の入学者を待たせたいと思えます。(Y・M)

「ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンテオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。」

(使徒 11・20)

院長コラム「福音の働きを支えた人たち」

邦人が宣教の対象にならなければならないこと

この大きな働きは、無名の人たちの小さな一歩であったことを覚え、私たちもまた、そのような無名の人たちの一人となるべきです。

聖書のなかには、だれもが知っている「有名」な人物がいます。どういふ人かよく分からなくても名前が出てくる人たちもいます。それととも文字通り「無名」の人たちが福音を伝えることにあずかっている様子を見ることもできます。初代教会の宣教拡大のための拠点となったアンテオキアに福音を伝えたのは無名の人たちでした。使徒

11章の後半にそのことについて、対象がユダヤ人



(院長 林 正弘)

2021年6月1日 第9号

編集・発行人
中山朝雄(後援会会長)
後援会事務局
〒226-0024

神奈川県横浜市緑区西八朔町1194-2

※後援会についてお問い合わせは
下記までご連絡ください。

電話

03-3291-1308(本部、中山)
メールアドレス

koenkai@btc.jpn.com